

ダイバーシティ推進委員会 女性会計士専門委員会研修会 「宝塚歌劇団におけるマネジメントについて (101周年から6年間理事長を務めて)」開催報告

ダイバーシティ推進委員会 女性会計士専門委員会 委員 吉川 和美

日時：2021年11月27日（土）15時～16時半
場所：日本公認会計士協会近畿会およびMicrosoft Teams（オンライン）
講師：小川 友次 様
(株式会社梅田芸術劇場取締役会長、株式会社タカラヅカ・ライブ・ネクスト代表取締役社長)
参加人数：58人

今回の研修会では、今年創立107周年となる宝塚歌劇団の前理事長である小川友次様からお話を伺いました。



宝塚歌劇団といえば、関西を代表する歴史あるエンターテインメントであり、豪華な衣装や舞台、演者は全員女性であること、男役・娘役「トップスター」システムを擁すること等、様々な観点で取り上げられることが多いと思います。小川様のお話は、ダイバーシティや女性活躍の観点にとどまらず、顧客満足を高

めながらいかに収益を獲得していくのかというビジネスモデルにまで及ぶ充実した内容でした。一つ一つのシステムが考え抜かれたものであり、それぞれが経営学やマネジメントの教科書の題材になりえるほどで、タカラヅカファンとしても会計士としても、大変興味深くお聞きしました。質疑応答も含め1時間半、中には「ここだけの話」もしてくださったのですが、特に印象的だったお話を2つレポートさせていただきます。

1つは、劇団経営の収益化についてです。

公演時期から逆算して企画し、ブロードウェイミュージカルや原作があるものについては著作権を交渉し、DVD・Blu-ray等の映像としての販売までのトータルで収益化を考える必要があります。そのために

- コンテンツをつくる要となる演出家も、宝塚大劇場に隣接する小劇場や比較的小規模な外部の劇場から始めて、機会を与えながら計画的に育成
- チケット販売についてはチケット販売チームが貸切や団体、一般顧客のバランスを考えながら販売
- 周年イベントなど、「わくわく感」を演出し、「観たい」と思ってもらえるムードを盛り上げる
と言った取り組みをされています。関係者間の調整や、こだわりの強い芸術家気質の方々を説得しながら推進することは高度なマネジメントが要求されると拝察しました。

このように劇団員である「生徒」を教育する音楽学校から演出家、衣装、舞台装置、楽団から東西の専用劇場、コンテンツの著作権まで自前で保有し、チケットだけでなく、DVD、

Blu-ray、グッズ販売まで一気通貫で提供するビジネスモデルは他にはない強みとなっています。また、新型コロナウイルスの流行で劇場に行くことがかなわない環境であっても、「配信」という形で提供されており、新たな収益獲得の機会となっているとのこと。

2つめは、長年培われた歌劇団ブランドについてです。

講演内では、劇団員である「生徒」に対し、歌、ダンス、演技といった芸事も大切だが人格を磨くように伝えているというお話が随所にあり、「技量、品格、人格が大事」という言葉が非常に印象的でした。劇団としての新陳代謝をはかるために、毎年40人入団したら同じ人数だけ退団しなければピラミッドが維持できないという厳しさのある中、生徒へ愛情をもって接しておられることもよく伝わってきました。ブランドは一朝一夕にはできませんが、崩れるときは一瞬です。小川様はもち

ろんのこと、生徒、演出家他、関係する人々がタカラヅカを好きで大切に思うという状態を保つことによりブランド価値が維持できているのだと感じました。

また、小川様は2021年4月に「株式会社タカラヅカ・ライブ・ネクスト」代表取締役役に就任されており、こちらはタカラヅカを卒業したOGの活躍の場として、さらにはタカラヅカのブランドを維持するクリエイターを育てる場とされる計画であるとお話がありました。卒業生が活躍すればタカラヅカのブランド価値をますます高めることになり、双方にとってよいあり方であると思いました。

その他、トップシステムについて、演目の選び方など、タカラヅカファンには興味のない様々なお

話をお聞きしましたが、今回の研修に参加された皆様にとっても、より一層熱意が高まるとともに、今後の業務につながる何らかのヒントを得ていただけたのではないかと思います。

ダイバーシティ推進委員会では、今後も会員・準会員の皆様を対象とした研修会を企画しております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

